

# Messages for **PEACE**

九条の会・豊中いちばん星  
結成 10 周年 メッセージ集

2015年6月

10 年間、いちばん星はみなさんと一緒に、「平和」を願い続けてきました。そして、これからも・・・

2001 年の同時多発テロ事件のあと、世界が大混乱に陥り、日本も「戦争のできる国」に向かって走り始めました。その平和憲法の危機的な状況の中で「九条の会」が結成され、次々と全国に広がっていきました。ここ豊中でも 15 人の女性が集まり、「いちばん星」が生まれました。以来 10 年間、「子どもたちに平和な未来を手渡したい」という願いで、九条改憲を阻止するために活動してきました。

戦争の世紀を経て、世界平和が実現されると期待された 21 世紀。しかし現実には、世界中で武力による威嚇や報復の連鎖が止まらず、この今も、戦火に怯え、家族を奪われ、住む家も破壊され、途方にくれる人たちがたくさんいます。日本人さえ平和で安全ならよいという時代ではなくなりました。

憲法 9 条に守られ、70 年間戦争を知らずに生きてきた私たちが、これからどのようにこの厳しい時代に向きあっていけばよいのか…みなさんと一緒に考え行動していきたいと思います。

結成 10 周年にあたり、これまでと一緒に活動したり講師をお引き受けいただくなどご縁のあったみなさまから、貴重なメッセージをいただきました。それぞれの分野で平和のためにご尽力されている方々です。ありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いいたします。

2015 年 6 月 九条の会・豊中いちばん星



Let's have one more cup of coffee for Peace!

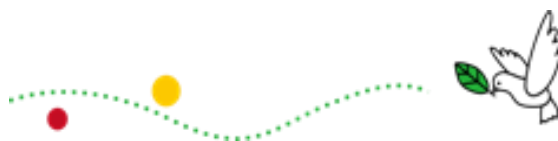
## ☆「九条の会・豊中いちばん星」十周年おめでとう 九条の会・豊中 高市 光男

「九条の会」の呼びかけに応じて、「豊中憲法 9 条を語る会」の呼びかけで「九条の会・豊中」の設立準備にかかったころ、「いちばん星」さんの結成の報を知り、みんな大いに驚いたものです。喜びと敬意をもっています。



豊中の戦跡に詳しい高市さん

以来、5月3日の市民パレードをはじめ、講演会など数々の取り組みを共催、あるいは協力しながらすすめてきました。その中で協力共同の大切さを学んできました。これからも皆さんの知恵と力を発揮して、憲法を護る闘いをリードしてくださいよう期待します。



## ☆九条の会・豊中いちばん星のみなさまへ

みのお9条の会 黒田悠紀子

10周年おめでとうございます。

「憲法 9 条を激動する世界に輝かせたい。日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、改憲の企てを阻むために、あらゆる努力を今すぐ始めましょう」という、大江健三郎さんたち「九条の会」のアピールに呼応して、みのお 9 条の会も、いちばん星さんと同じころにスタートしました。そして、学習会や講演会、ピースウォーク、ピースフェスタなど、さまざまな活動を協力し合いながら続けてきましたね。「若い世代に、二度と再び戦争の惨禍を味あわせてはならない」と願って、この 10 年、私たちはどんなに熱い思いを持って歩んできたことでしょう！

「武力をもたない、交戦権も認めない」と、戦争の放棄を宣言した憲法 9 条は、計り知れない犠牲の果てにたどり着いた人類の理想でした。そして、核兵器が世界中に存在し、ボタン戦争とも言われる今日、この理想が一段と現実性を持ち、これからの世界のあり方を示す最先端の思想となってきました。それなのに、国会では一連の「戦争法案」が上程され、日本を戦争する国にしようとする安倍内閣が暴走しています。しかも、ニセの「平和」を何度も口にしていることが許せません。

憲法 9 条は、大変な危機にさらされています。

いつも明るく、機知に富んだ活動をつづけておられる「豊中いちばん星」のみなさん、ほんとうの「平和」を守りぬくために、これからも知恵を出し合い、手を取り合って進んで参りましょう。

## ☆豊中いちばん星の皆さんへの連帯のご挨拶

関西大学（副学長）法学部教授 吉田栄司

昨年暮れ、最大野党民主党の体たらくを見越し、安倍自民党は敢えて争点提示をせず、衆院解散総選挙に踏み切った。予想通り？戦後最低の投票率 52.7%の下、比例代表での得票率 33.1%で、かけ算からすれば全有権者のわずか 17.4%の支持に留まったが、1位以外の候補が獲得した 2540 万票 48%をすべて死票にさせた違憲小選挙区制で、自民党は文字通り議席数を掠め取り、何と議席占有率 61.3%を獲得した。実に 4 倍近いマヤカシ議席である。比例代表制を基本とするドイツの制度であれば、恐らく 291 議席に遥かに及ばぬ 170 程に留まるはずだということを、憲法研究者の立場で皆さんに伝えておきたいと思う。



それはそれとして、例の 9 条の会アピールに呼応し、10 年前に 15 名の豊中のオバちゃん達が「いちばん星」を名乗り、平和のために実に積極的に活動を開始され、精力的に創意工夫を凝らしてそれを継続されていることに、私は心からの敬意を表したく思う。本当にスゴイと思っている。その命名の由来を必ずしも確かめていないが、暮れなずむ西方に一番に輝く「宵の明星」たりたい、との願いが込められているのかなと私は勝手に想像している。その金星はローマ神話での美と愛の女神ヴェヌス VENUS で英語ではヴィーナス、木星がローマ神話での全能の神ユピテル JUPITER で英語ではジュピター。私は、2000 年の NHK 『プロジェクト X』主題歌であった中島みゆきの「地上の星」をいつも連想している。「街角のヴィーナス♪」である名も無きオバちゃん達が、清く明るく瑞々しく輝き続けて、「崖の上のジュピター♪」たる思い上がりの安倍首相を追い落とす姿を思い描いている。これからも、共に学び、皆に働きかけ続けましょう。負けてたまるか、ってね。



学習会の風景(2014 年 3 月 21 日)

☆結成10周年おめでとうございます。

## 9条パレードの会 弁護士 辻 公 雄

大阪の9条パレードの会にはいつもさっそうとして参加していただきありがとうございます。都構想投票で示された市民運動の力は戦時立法の反対運動をしてゆくについても、市民に大きな自信を与えてくれたと思います。人間尊重人間愛に基づく運動は必ず勝利するんだという確信をもち、身の回りで創意工夫して情熱をもってやってみましょう！



第100回9の日パレードにて  
(2014年4月9日)

☆いちばん星のみなさん、結成10周年おめでとうございます。

## 「阪大・9条の会」事務局長・木戸衛一

いつも変わらぬ精力的な取り組みに、心より敬服しています。

この間、日本の政治は劣化の一途をたどり、憲法をめぐる情勢はますます厳しくなっていますね。麻生副首相の発言どおり、ナチスの手口を学んで、「閣議決定は憲法に違反できる」といわんばかりのデタラメがまかり通っています。この「壊憲」ぶりは、もはや、憲法を変えて戦争する国にするどころか、まず戦争をして憲法を変えるという方向に向かいかねません。



かつての戦争の反省はしない。福島原発事故の反省はしない。普段威張っているくせに、いざとなると絶対に責任を取らないオヤジたちが牛耳るこの国を真っ当なものにするには、女性パワーに期待するしかありません（もともと、生物的には女でも、「立派」なオヤジはいますが）。

「阪大・9条の会」はこのところ、集会の会場提供係に甘んじていますが、みなさんを見習い、次の世代のために、一緒にこの状況を乗り越えていきたいと思えます。



## ☆平和への責任

関西大学法学部教授 大津留（北川）智恵子

いちばん星が活動を始めて 10 年。イラク戦争に「有志」として参加することで本当の平和を手できないのだと、一人ひとりの市民が、自分の考える平和の実現に取り組んできたのが、いちばん星の活動だと思う。10 年経ち、軍事力が恒常的に行使できる国になるための法整備が目の前で行われている中で、この 10 年を振り返ってみることは重要だと思う。

普段教えている国際政治学の授業は、今日の前で起こっていることを、その瞬間だけで理解することはできないという話から始める。それが起きるには背景があり、その背景要因にはさらにその前提となった出来事があるだろう。そうした綿々とつながる枠組みの中で考えると、どこかで生じている出来事に対して、「私たちは全く悪くないのに、なぜ世界ではこんなことが起きたのだろう」という、自分を中心とした瞬間的な世界観からは見えてこない、無自覚の責任が存在することがわかる。「平和国家日本」というラベルにも、そうした無自覚性が存在していた。

自分が行ったことが、あるいは行わなかったことが、結果的には一連の出来事を前に進めることを促している。そうした連続性の中で考えると、今日の前で起こっていることに何もしないということは、未来の私が今を振り返った時に、次に起こるであろう出来事を防ぐ可能性があったにも関わらず、その機会を逃してしまったという責任を、自ら負うことになるのだろう。

しかし、こうした連続性は、戦争や人権侵害などの否定的な出来事を生む方向にだけ伸びているわけではない。人の輪を作る、相手の立場から考えるなど、市民社会の日常的な活動の中には、建設的な方向へとつながりを築いていくための要素が、意識されずに存在している。今行った一つの行為が、次に起こるかもしれない否定的な現象を食い止めるという受動的な意味だけではない。今行った行為が、相手との間に築いてきたつながりに支えられて、さらに広がりをもってつながっていくことで、出来事を異なる展開へと能動的に導くこともできるはずである。

10 年後にいちばん星がもう一度その活動を振り返る時に、そうした能動的なつながりを起動することができたね、と確認していたい。10 年目を機に、楽観できない状況であるからこそ、私たちにできることを一つずつ積み重ねていく決意を新たにしている。

## ☆いちばん星 10周年へのメッセージ

関西大学法学部教授 高作正博



解釈改憲により、平和に関する憲法の制約が外されようとしています。この状況に、まずは「主権者」として、強い怒りを示すと同時に、冷静に次にとるべき対応を考える必要があると思います。その中心となるのは、民主主義を通じた制約となるでしょう。

今度は、「有権者」として、選挙や表現活動などによって権力者の行動を厳しく監視していくことが求められます。私たち自身が、今まで以上に正しい民主主義を実践できるよう、共に頑張りましょう！

## ☆私たちは正念場を迎えています

フリージャーナリスト 西谷文和

九条の会・豊中いちばん星の10周年、おめでとうございます。市民運動を10年も継続するのは、実は大変なことだと思っております。

みんなボランティアで動かれているでしょう？会員のみなさんの、普段からのご奮闘にあらためて敬意を表したいと思っています。



しかし10周年を迎えたからといって、反戦平和の社会が実現するとは限りません。それどころか、今の安倍政権は、戦後70年続いてきた平和国家としての伝統をかなぐり捨てて、米国による戦争の補助部隊として自衛隊を海外派兵させようと画策しています。事態は正念場を迎えています。国民の反対世論がなければ、数を頼りに、今国会で「戦争法案」が強行採決される可能性が高いのです。

明らかに安倍政権は暴走しています。安倍政権は打倒の対象です。来年の参議院選挙で自民、公明、維新が3分の2以上を占めると、憲法改悪の発議がなされ、国民投票が始まってしまいます。そうならないために、今から「戦争反対、憲法9条を守れ」という運動を広げていきましょう。

私たちは正念場を迎えています。

10年前の  
メッセージです

## いちばん星のアピール

戦後60年がたちました。この長い年月の間、日本は戦争をしていません。一度も国家の名において人を殺していないのです。「憲法九条」が許さなかったのです。

一方において自衛隊があります。世界でも5本の指に入る軍事力を持っています。PKO法のもと世界中に派遣され「国際貢献」もしています。迎撃ミサイルの開発も進めている自衛隊、できないのは「戦争をしかけること」と核武装だけです。

今、憲法を変えて何をしようというのですか。

戦争ができる「普通の国」にしようということでしょうか。

「国際貢献」の名の下に血を流せというのでしょうか。

「軍隊」に入る義務を国民に課そうというのでしょうか。

それとも核武装？

私たちは、憲法九条を変える必要があるとは思いません。むしろその存在はますます重要になってきています。

戦争・貧困・人権侵害・環境破壊は相互に関連し、世界に大きな問題をもたらし、地球の破滅をも予告しています。21世紀が人類にとって、最後の世紀になるのか、新しい歴史の転換点になるのか、究極の選択のときを迎えています。平和なくして人類は存続できません。今こそ日本は「平和憲法」を高く掲げて、国際社会でリーダーシップを発揮すべきではないでしょうか。

しかし「改憲」の叫びが国会でも多数を占めつつあります。今、私たち市民が声を上げなければ憲法九条は死んでしまう。その思いから私たちはここ豊中で、「九条の会・豊中いちばん星」を立ち上げることにしました。

2005年2月4日 結成 九条の会・豊中いちばん星